

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	多機能型・プロスペール	公表日	2026年 4月 1日
------	-------------	-----	-------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			スペース・配置)：発達段階に応じた十分な広さの確保と、手厚い配置の維持。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			改善点: 特定の活動に集中できるよう、動線や機材配置を再点検していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%			(環境構成・清潔)：モンテッソーリの視点を取り入れた構造化と衛生管理をしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			改善点: 未就学児の視線に合わせ、どこで何をやるかが直感的にわかる視覚的工夫を強化していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			(理解・受容)：子どものありのままを受け入れる姿勢。 改善点: スタッフの精神的余裕を維持し、一人ひとりの個性に対する受容的な関わりを継続していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%			(自己評価・情報公開)：改善プロセスの透明化。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者様から意見があった際は、チームで話し合い、共有して、改善に努めるようにしている。	改善点: 評価結果の公表に加え、具体的な改善の進捗を定期的に記録・公開していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		朝の全体ミーティングで、意見がある際は、どうすればその内容が解決するか話し合っている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			(プログラムの多様性)：療育内容の横直化防止。 改善点: ITやモンテッソーリ以外の遊びのバリエーションも確保し、多面的な刺激を提供する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			(アセスメント・計画)：冰山モデルを計画書へ統合。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			改善点: 行動の背景(冰山モデルの視点)を個別支援計画に明文化し、全スタッフで共通のアプローチを取れるようにしていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			(支援内容・自己決定)：「自分で選ぶ」姿勢の深化。 改善点: 選択肢の提示方法を工夫し、新しいことへの挑戦を無理なく促す環境を整えていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			(自立支援・地域連携)：社会との接点作り。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			改善点：保育所等訪問支援を強化し、他機関との連携の中で、子どもの様子を多角的に把握していきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				(連携体制)：地域のハブとしての機能。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	1			改善点：学校や他事業所との事例検討会を主導し、地域全体での支援力を向上させていきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100%			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%			
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		100%		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			(相談・支援)：保護者の療育理解への支援。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			改善点：SNS連絡の際、専門的な根拠(ABAの原理など)をわかりやすく添え、家庭での関わりのヒントを提供していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%				
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%				
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%				

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		100%		(満足度・苦情対応)：信頼関係の深化。 改善点：匿名性を確保した意見収集の仕組みを再周知し、潜在的なニーズを掘り起こす。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			(安全・防災・防犯)：未就学児特有のリスク管理。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%		改善点：IT機材の多い環境での火災・感電防止マニュアルの徹底と、定期的な避難訓練の実施してまいります。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			健康・感染症・個人情報)：デジタル機材の共有管理。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			改善点：複数人で触れるマウスやキーボード等の消毒をルーブル化し、衛生管理を徹底する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			(虐待防止・身体拘束)：権利擁護の意識徹底。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			改善点：身体拘束ゼロを維持し、不適切な声掛けや関わりがないか、スタッフ同士で相互に振り返る時間を設けてまいります。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%				